

第4回木曾川上流自然再生検討会 議事要旨

日 時：平成21年11月4日（水）15:00～17:00

場 所：ホテルリソル岐阜 6階 美花の間

1．開会

2．挨拶（木曾川上流河川事務所 所長、座長）

3．議事

（1）議事録の確認

- ・第3回検討会議事録について、確認・了解された。

（2）第3回検討会からの主な意見と対応について

- ・木曾川の流況の変化はどのような傾向にあると認識すれば良いのか、データを整理してほしい。
- ・トンボ池の水位は、地下水位と連動しているのであれば、降水によってレスポンスがあると考えて良いか。

（3）トンボ池等湿地環境再生検討会等の報告及び地域からの意見について

- ・自然再生の対策は、地域に根付いた環境学習、環境教育等の活動を継続することが重要である。

（4）木曾川上流自然再生計画（案）の内容について

流域及び河川の課題について

- ・南派川の樹林化の要因は、洪水の流入頻度の減少だけでなく、複断面化等も考えられるので、要因に対応した対策の検討が重要である。
- ・コアジサシは川の中流域を代表する重要な指標種なので、繁殖確認位置が減少している原因がわかれば教えてほしい。
- ・昔、砂礫河原であった原因は1つだけでなく、様々な要因が考えられるので対応は慎重に行う必要がある。また、課題の緊急度に応じて、検証を待つのでなく早急に実施すべき対策は実施していくことが重要である。
- ・砂礫河原の樹林化について、砂礫河原から樹林への遷移過程があるので、遷移の中間的な課題も把握しておく必要がある。
- ・自然再生では、現存する良好な環境を保全していくという観点も必要である。

整備内容について

- ・ トンボ池の整備について、トンボが生息するためには水面、抽水植物、飛び回れる空間の 3 つの要素が重要である。計画にはこれらと外来種対策も含まれており、是非進めてほしい。
- ・ 砂礫河原の課題の一つは砂の堆積である。工事の際は礫を残すことが必要である。
- ・ 地域に河川環境の情報を示し、地域の NPO 等から良い提案等があった場合は、活用して行ってほしい。
- ・ 新たに創出しなければ現状の環境を維持できない場合もあると思うので、適切な候補地があれば取り込んで行ってほしい。
- ・ 河床低下がまだ下げ止まっていない状況の中で、将来的にアユの産卵場に影響を及ぼすことが考えられるので、このようなまだ顕在化していない課題についても認識できる自然再生計画書にした方がよい。

自然再生の推進体制について

- ・ 自然再生の推進体制は重要な項目である。調査・計画・施工・維持管理の各段階で一連のものとなるよう配慮した方がよい。

(5) その他（地域での活動報告、今後の予定）

- ・ 自然再生は地域の理解が必要である。今後、海づくり大会や生物多様性締約国会議（COP10）等の催しがあるので、自然再生計画の PR 等を考えた方がよい。
- ・ 自然再生計画については今回の意見を計画書に反映してもらい検討会は今後、現実に起こる現象のモニタリングについて検討する。

4 . 閉会